

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 (伊勢工業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒(ひとづくり) ○ 産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり)
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 卒業後の進路希望は、就職が約8割、進学が約2割である。また、資格の取得や活発な部活動に期待している。</p> <p><保護者> 保護者の多くは、子どもの地元企業への就職を希望している。</p> <p><地域> 元気で素直な生徒の育成に期待をしており、特に地元企業からの期待が大きい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><家庭> 日常の子どもの様子を知らせてほしい。</p> <p><中学校> 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。</p> <p><地域社会> 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。</p>	<p><家庭> 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。</p> <p><中学校> 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。</p> <p><地域社会> 本校の教育活動を理解し、積極的に協力して欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携に関して学校の活動(事項)の洗い出しをして、教員(学校)にしかできないことと学外(サポーター)の協力を得てできることの選別を行い、積極的に地元企業をはじめとする外部の力を活用してはどうか。 ・ 働き方改革の面からも学校や教員にできることがどんどん制限されてくる中で、部活動の外部指導者導入など、いろんな面で自前主義からの脱却を考える時期である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p><現状> 在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。</p> <p><課題> 企業が求める人材は、現在より一段高いところ(異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等)にあり、そのニーズに応えていく必要がある。また、コロナウイルス感染症の影響による授業や実習の遅れに対応するとともに、厳しさを増すと予想される就職に備えていく必要がある。</p>	

学校 運営等	<p><現状>本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。</p> <p><課題>活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えるための土日のイベント参加も多くなり、教職員も生徒たちも疲れてきている。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や生徒たちの過重な負担を減らしていく必要がある。</p>
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。 ・基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。 ・第1希望の進路の獲得を目指し、基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。 ・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	<p>分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図ります。</p> <p>「高志」ある生徒が、卒業時に取得すべき資格等を明確にして、取得するための体制づくりに取り組み、成果を上げます。</p> <p>(1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図るとともに、実用に即した資格取得に重点をおいた教育実践に努めます。</p> <p>(2)実習・課題研究や製図の取り組みの中で、技術技能の向上並びに表現能力に長けた生徒の育成を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)ものづくり大会への参加 ・ ものづくり東海大会への出場(中止)</p> <p>(イ)技能検定3級程度の技能練習、補習授業等の実施</p> <p>(ウ)建築設計競技会の参加</p> <p>【成果指標】</p> <p>*資格取得【別表】参照</p> <p>(3)図書館の取組として、生徒の「生きる力」を育むため、読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>授業やHR活動等での図書館利用の推進</p> <p>三重県学校図書館協議会および南勢地区高等学校図書</p>	<p>日本大学全国高等学校建築設計競技 優秀賞</p> <p>愛知産業大学建築コンペティション 優秀賞</p> <p>修成建築設計競技 優秀賞</p> <p>日本工業大学建築設計競技 佳作</p> <p>長崎総合科学大学設計アイデアコンテスト 入賞</p> <p>一般社団法人日本建築協会主催 工高生デザインコンクール 優秀賞</p> <p>技能検定3級(建築大工)4名受験</p> <p>技能検定2級(建築大学)1名受験</p> <p>建労四日市人材育成支援センター主催木工技術研修会 3位</p>	<p>図書館の取り組みは、コロナ禍であったが、生徒の「生きる力」を育むため、読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めた。</p>

	<p>館連絡協議会との連携</p> <p>【成果指標】</p> <p>生徒1人当たり貸出冊数5冊以上</p> <p>高校生ビブリアバトルへの参加</p>	<p>・学校休業もあった中、2月22日現在の1人当たり貸出冊数、1年生4.8冊(昨年度3.8)、3年生4.6冊(昨年度5.4)と、ほぼ指標に達する成果をあげた。2年生が1.6冊(昨年度4.3冊)と非常に低くなった。</p> <p>・ビブリアバトルについては、校内大会は感染防止策を講じながら短縮で実施、地域大会は形式を変更して実施されたが、日程が資格試験と重なり参加できなかった。県大会は中止となった。</p>	
<p>生徒指導</p>	<p>基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成します。</p> <p>(1)挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) 全教員による登下校校門指導と校内巡視(毎日)</p> <p>(イ) 駅前・町内巡視の実施</p> <p>(ウ) 5分前精神の徹底(時間を守る・遅刻しない)</p> <p>(エ) 授業に集中させるために入室許可証の発行実施</p> <p>(オ) 頭髪服装指導(通年)・身だしなみ講座(4月)の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア) 挨拶の励行100%</p> <p>(イ) 遅刻の回数 昨年度比25%減</p> <p>(2)日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的にモラル教育を実践します。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア) 欠席日数の減少</p> <p>(イ) 校則違反等による特別指導件数の減少(10件以下に減)</p> <p>(3)工業高校生としての連帯感を高め、いじめのない良好な人間関係の構築に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) 新入生研修の実施(4月)</p> <p>(イ) 各科や各学年を通じた指導</p> <p>(ウ) 部活動での人間関係の育成</p> <p>(エ) 生徒個別面談(年間2回)や学校生活等に関するアンケート(各学期)の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>いじめの未然防止、早期の把握・解消</p> <p>いじめの認知数ゼロ(いじめアンケートより)</p>	<p>・輪番で全職員あげて登校指導・校内巡視を実施した。</p> <p>・駅前・市内巡視は生徒指導部で曜日限定して実施した。</p> <p>・入室許可証を取りに来る生徒は昨年度に比べ減少した。</p> <p>・身だしなみ講座は1年生対象にオリエンテーションで実施した。</p> <p>・頭髪服装指導について</p> <p>1)毎月実施した。(コロナ禍の影響で6月・2月は実施できなかった)</p> <p>2)頭髪服装指導の延べ人数は、学年団や科の取り組み(事前指導)により、減少した。(昨年度比31%減)</p> <p>3)学年別では、上級生の再指導が増加の傾向にある。</p> <p>・挨拶については、来客の方から高い評価を得ています。</p> <p>・遅刻について</p> <p>1)ここ数年間登校時間厳守の意識が定着してきており、遅刻数は減少傾向にある。(昨年度比33%減)</p> <p>2)6・11・2月の遅刻防止月間をH26より導入し、成果がでているので、今後も続けていきたい。</p> <p>・特別指導について</p> <p>1)目標数値には達していないが、昨年度に比べ減少した。</p> <p>2)SNSによるトラブル・迷惑行為が相変わらず多くを占めている。SNSに関する学習会や学年集会等を開</p>	

	<p>(4)学校の様子を積極的に保護者に発信し、意思疎通を図り、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。(保護者や学校関係者以外の意見、HR活動や個別懇談の状況把握等の実施)</p> <p>【活動指標】 (ア) 保護者会やPTA諸会合での説明 (イ) 学年懇談会での話し合い (ウ) 生徒個別面談を年2回実施、学校生活等に関するアンケートを各学期に実施</p> <p>【成果指標】 保護者が学校の様子をよく理解している。 保護者が学校に対し気軽に意見を言える。</p>	<p>き、生徒の規範意識を高めることが必要である。</p> <p>・生徒個別面談・学校生活などに関するアンケートを予定通り実施し、生徒の状況把握をすることができた。</p> <p>・いじめの認知についても把握し、情報共有しながら生徒に対応した。</p>																																									
<p>進路指導</p>	<p>希望の進路に内定できてこそ、活気ある工業高校が実現できます。基礎学力向上に向けた取り組みの充実と、面接が「自分の人となりの魅力を伝える」場となるよう表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組みます。</p> <p>(1)キャリア教育を推進して、生徒・保護者の希望に合った進路実現をめざします。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) 新型コロナウイルスの感染防止の観点から、企業訪問を自粛する。その代わりに、過去5年の卒業生の就職先を中心に約200社へ挨拶状を送付し、今年度の求人お願いと、卒業生の現状確認を行う。その後は電話やメールなどで各社とコミュニケーションを取っていく。</p> <p>(イ) キャリア教育の推進による生徒の主体的な進路選択・進路決定</p> <p>(ウ) 全職員及び外部講師による「面接指導」の実施</p> <p>(エ) インターンシップ(1・2年生)の実施 例年夏期休業中に行っているが、今年度は協力企業と連絡を取り合い、実施する時期を検討する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア) 求人企業数・求人数の大幅減を防ぐ (イ) 一次合格率、就職90%以上・進学 95% (ウ) インターンシップの実施</p>	<p>・マナトレやSPI対策ワークを使用し、学習習慣の確立を図るとともに、確認テストを実施することで、学力の定着を図った。また、年に2回基礎力診断テストを実施し、基礎学力を定着させた。</p> <p>・5月中旬、236社に挨拶状を送付し、182社より返信があった。離職状況や今年度の求人に対する各社の考えを確認した。</p> <p>・今年度の求人状況</p> <table border="0"> <tr> <td>県内</td> <td>387社</td> <td>643名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>県内全域</td> <td>62社</td> <td>90名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>北勢・伊賀</td> <td>80社</td> <td>167名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中勢</td> <td>122社</td> <td>197名</td> <td>南</td> </tr> <tr> <td>勢</td> <td>123社</td> <td>189名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>183社</td> <td>283名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>570社</td> <td>926名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>求人倍率</td> <td colspan="3">7.98倍</td> </tr> <tr> <td>昨年度合計</td> <td>646社</td> <td>1104名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>求人倍率</td> <td colspan="3">7.08倍</td> </tr> </table> <p>1割強の減少であったが、十分な数の求人があった。</p> <p>・学校斡旋の就職内定率は本年度も100%を達成した。</p> <p>・進学については 四年制大学13名、短期大学2名 高専編入1名、専門学校19名 各種学校2名、合計37名が合格した。</p> <p>・一次合格率 就職92% 進学97% 目標を達成した。</p> <p>・インターンシップはコロナの感染状況や学校の授業日数等の関係から、今年度は中止とした。</p>	県内	387社	643名		県内全域	62社	90名		北勢・伊賀	80社	167名		中勢	122社	197名	南	勢	123社	189名		県外	183社	283名		合計	570社	926名		求人倍率	7.98倍			昨年度合計	646社	1104名		求人倍率	7.08倍			
県内	387社	643名																																									
県内全域	62社	90名																																									
北勢・伊賀	80社	167名																																									
中勢	122社	197名	南																																								
勢	123社	189名																																									
県外	183社	283名																																									
合計	570社	926名																																									
求人倍率	7.98倍																																										
昨年度合計	646社	1104名																																									
求人倍率	7.08倍																																										
改善課題																																											
<p>コロナ禍の就職試験対策やオンライン会社見学などについて教員、生徒ともにスキルを向上させる必要がある。</p>																																											

【別表】

資格取得 合格者数の 目標値	資格、検定	機械科	電気科	建築科
	危険物乙種4類	全学年80人(47)	40人(16)	
	ガス溶接技能講習	2年生80人(80)		
	基礎製図検定	2年生80人(61)		
	機械製図検定	3年生50人(24)		
	技能検定(機械保全)3級	(試験中止)		
	技能検定(機械検査)3級	10人(学科受験5結果待ち)		
	技能検定(普通旋盤)3級	5人(試験中止)		
	小規模ボイラー講習	50人(68)		
	ボイラー技士2級	5人(受験なし)		
	電気工事士2種	(1)	40人(36)	
	電気工事士1種		10人(7)	
	電気主任技術者3種		1人(0)	
	第二級陸上特殊無線技士	(4)	10人(14)	
	第二級海上特殊無線技士		10人(15)	
	技能検定(シーケンス制御)3級		10人(中止)	
	技能検定(電子機器組立て)3級		20人(結果待ち)	
	福祉住環境コーディネータ3級		40人(16)	2級1人(0)、3級5人(5)
	2級建築施工管理技術検定試験			9人(3)
	カラーコーディネータ3級			5人(5)
建築CAD検定4級			40人(35)	
建築CAD検定3級			37人(35)	
建設業経理事務士4級			28人(20)	
技能検定(建築大工)3級			2級1人(0)、3級4人(5)	
レタリング検定3、4級			コロナ禍のため中止	

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>(1) 教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日を月1日実施 ・ 部活動休養日を週1回設定 ・ 放課後の会議の時間 60 分以内 <p>【成果指標】(()内は平成 31 年度の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上限時間月 45時間超の延べ人数 0 人 (50 人) ・ 上限時間年 360 時間超の延べ人数 0 人 (15 人) ・ 時間外労働を月 2 時間削減 (22.5 時間/月) ・ 定時退校できなかった教職員数延べ 15 人以内 (35 人) ・ 予定通り休養日を設定した部活動の割合 100% (96.5%) ・ 60 分以内に終了した放課後の会議の割合 100% (97.1%) ・ 休暇取得を年 0.5 日増加 (22.5 日/年) <p>(2) 体罰や不適切な指導のない状態を守り続け、生徒がより安心、安全に過ごせる学校を目指します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンプライアンス研修を年 1 回実施 ・ ミニコンプライアンス研修を月 1 回実施 <p>【成果指標】</p> <p>職員一人ひとりのコンプライアンス意識が高まっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習棟職員トイレのシャワートイレ整備。 ・ 定時退校日、部活動休養日、放課後の会議時間の設定を活動指標通りとした。 ・ 月 45時間超 30 人(2 月末) ・ 年 360 時間超 5 人(2 月末) ・ 時間外労働 月 10.9h (22.5h)(2 月末) ・ 定時退校できなかった教職員数延べ 64 人(2 月末) ・ 予定通り休養日を設定した部活動の割合 98.8%(2 月末) ・ 60 分以内に終了した放課後の会議の割合 92.3%(2 月末) ・ 19.2 日(2 月末) ・ 実施した ・ 6 回実施 	

<p>地域との連携</p>	<p>南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めます。</p> <p>(1)地域関係者との連携強化及び学校の情報発信力の強化を図ります。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) 小学校への出前授業の実施</p> <p>(イ) 工業高校生フェアの開催準備(R2年度は休止のため R3 年度に向けての検討)</p> <p>(ウ) 中学校教員等対象説明会の開催</p> <p>(エ) 「ものづくりの小径」の整備</p> <p>【成果指標】</p> <p>地域関係者との連携強化が進んでいる。</p> <p>(2)地元企業との連携強化に向けて、双方向からの情報発信・相互理解を深めるための行事を実施します。</p> <p>【活動指標】</p> <p>地元企業の高校内企業説明会の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>企業、生徒双方の満足度90%以上(満足度アンケートより)</p>	<p>・コロナウィルス感染拡大防止のため、地域との連携は中止となった。</p> <p>・ものづくりの小径については、各科の生徒作品を展示、見学コースの整備を行った。</p> <p>・実施した</p> <p>・かなり整備が進み中学生等に公開した</p>	
---------------	--	---	--

改善課題

- ・定時時間や会議時間の短縮等の徹底については昨年度と大きく変わらないが、平均時間外労働時間は縮減している。部活動時間の短縮や部活動休養日の徹底で効率的な部活動の指導方法の研究などをしていく必要がある。
- ・地元企業、官庁、商工会議所との連携を進めるなど、地域唯一の工業高校としての存在感を高める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>1) 次年度に向けた教育活動 について</p> <p>ICT 機器導入等、ますます情報化に向けての取り組みが求められることになる。工業高校は、旋盤技術・溶接技術や製図、電気工事等の基礎的な技術習得は必須であり、基礎の上に最新技術を積み重ねていただきたい。</p> <p>2) 地域との連携・学校運営 について</p> <p>「働き方改革」の名のもと、学校や教員にできることはどんどん制限されることが予想されることから、自前主義から脱却し、学外サポーター等の協力を積極的に活用されたい。</p>
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>ICT 機器や普通教室のホワイトボード等を整備し、令和 3 年度から本格的に ICT 機器を活用した授業を実施していく。これにあたり教務部内に情報担当を 1 名追加するとともに、情報化推進委員会を補強し、授業研究や ICT スキルアップ等の課題に取り組む体制を作った。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>働き方改革については、引き続き強く啓発に努めるとともに、学校の努力だけでは解決が難しいことから、競技団体等との連携と調整を進めていく必要がある。コンプライアンスについては、根気強く、意識を高め続けていくために、毎月のミニ研修を継続していきたい。</p>

